



いのちの日便り

2023. 1. 20

いのち推進
プロジェクト
NO. 9

希望の光

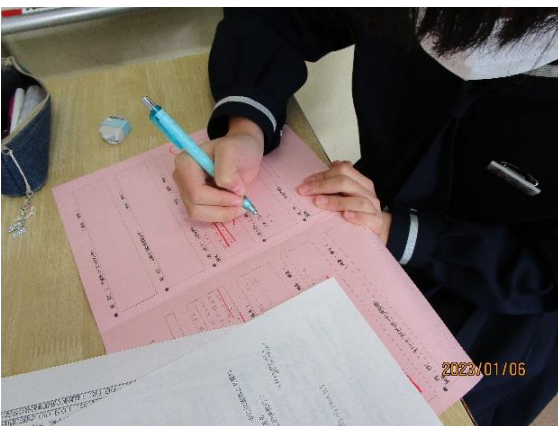
1月6日（金）の「一中いのちの日」は、校長先生から「希望の光」というお話をリモートにてお聞きしました。今年は卯年ですが、過去に歴史の転換期となる大きな出来事がありました。12年前の卯年に起こった東日本大震災、仕事として避難者の支援にあたった校長先生が感じた「希望の光」や実際に被災した野球選手の体験談から、私達が学ぶべきことは沢山あると思いました。



～ 生徒のみなさんの感想より ～

・今日の校長先生の話聞いて、大震災の時私はまだ1歳で記憶がありませんでした。悲しい気持ちになった人が多くいると知っていたけれど、学校に行けなかった時期があると知ったので、今学校に通えることを大切にしたいです。
(1年4組 さん)

・東日本大震災のときの記憶はないけれど、お母さんたちから聞いて、校長先生がお話していたことと同じように、山形市全体が停電し、信号の電気が消え、車が渋滞してしまい、大変だったということを聞きました。そのことは分からないけれど、コロナのことは忘れないようにしたいです。今できることを、できるだけ行動していきたいです。(1年4組 さん)



・僕は、ボランティア活動をしていた人たちが「子どもたちを笑顔に」という合い言葉でやっていたのに、本当は大人が子どもたちから笑顔にされていたということを聞いて、横糸のつながりの強さを感じました。そして次は自分が希望の光を出せるようになりたい、と思いました。
(1年5組 さん)

・東日本大震災のお話がありました。記憶はないけれど、すごく被害が大きかったんだなと思いました。その時笑顔にさせたのは子どもたちだったそうで、びっくりしました。「希望の光・未来の光」を意識したいです。

(1年5組 さん)

・東日本大震災で被災してしまった人はボランティアという存在があるだけで心の支えになるということがよくわかりました。自分も雪はきボランティアをするので、1人暮らしのお年寄りの方を助けてあげたいです。(2年4組 さん)



・大変なときこそ助け合いが大事だと思った。卯年の今年も何かあるかもしれないから気をつけたい。日頃から助け合いや防災について意識して生活していきたい。(2年4組 さん)

・東日本大震災や新型コロナによる全国一斉休校などの大変なことを重ねてきた上で私達は今を生きているので、今の平和で安全な世の中を当たり前のことだと思わずに日々過ごしていきたいと思った。(2年5組 さん)

・自分では分からない、覚えていない東日本大震災だけど、山形に大勢の人が避難してきていたこと、笑顔が少なかった時、ボランティアの人が子ども達やたくさんの人を笑顔にしたということを知って、自分も人を笑顔にできるような人になりたいと思いました。(2年5組 さん)



・東日本大震災の記憶はほとんどないけど、大きな被害があったことを忘れてはいけないと思った。コロナや災害によって突然当たり前の生活ができなくなることを、身をもって体験したからこそ、今の生活を大切にしたいと思った。(3年4組 さん)

・私の東日本大震災の記憶は、停電になったことと、何時間もガソリンスタンドに並んでいたことです。今だからこそあの時の大変さがわかりました。そして、球場に流れていた「あとひとつ」を聞いてとても感動しました。音楽の力はすごいのだと改めて実感しました。(3年4組 さん)

・どんなにつらい時でも、笑顔は人を幸せにするんだと改めて感じました。今までのうさぎ年はいいことも悪いこともありました。今年のうさぎ年は、みんなが笑顔で温かい年になるといいなと思いました。(3年5組 さん)

・校長先生の「希望の光」のお話を聞いて、ボランティア活動に積極的に参加しようと思いました。そして、受験と卒業に向けて1日1日を大切に、「あとひとつ」の歌詞のようにあきらめずに頑張っていきたいです。(3年5組 さん)

次の一中のいのちの日は2月2日(木)、先生方からの読み語りです。